

# 中津川の情緒再生



「ござ九」の壁の補修作業に汗を流すおもてなしプラザ運営協議会のメンバーら

盛岡の  
民間団体

## 「ござ九(市保存建造物)」の壁補修 落書き消し周囲を清掃

盛岡市内の七つの民間団体で構成する、おもてなしプラザ運営協議会(川村登会長)は二十六日から、市中心部を流れる中津川に面する雑貨店・「ござ九(同市紺屋町)」の壁の落書きを消す作業を始めた。メンバーは盛岡を代表する景観の状態をよみがえらせようと、歴史ある壁の補修作業に汗を流している。

壁は与の字橋と中の橋型協働推進事業」の補助金の左岸に面し、対岸金を活用。二十八日までには市役所がそびえる。壁の約20㎡に落書きがさ

れていた。

同日は同協議会のメンバーや専門的な作業を行う業者、市職員ら十人余りが集合。乱雑に落書きされた壁の表面を丁寧にがし、周囲の清掃も行った。

補修作業は市の「公募



本社 019(653)4111  
紫波支局 019(672)2800

販売店

- 加賀野(622)4942
- こずかた(624)2554
- 北都(622)5536
- 本宮(635)0185
- 太田(659)1056
- 築川(666)2355
- せいなん(638)4530
- 都南(638)1822
- 乙都(696)3651
- 矢巾・水本(697)2030
- 矢巾・金子(697)2200
- 紫波(672)3111
- 西都(699)3333
- 大釜(687)4168
- 小岩井(686)2422
- 雫石(692)2059
- 雫子(688)4080
- 好摩(688)4519
- 好摩(682)0304

の三日間で行われ、一面真っ白のしつこい壁がよみがえる予定。「ござ九は一八一六(文化十三)年の創業で、江戸時代末期から明治時代にかけて増改築された建物は市の保存建造物に指定されている。同店を営む森幸彦さん(65)は「落書きは少なくとも三十年以上前からあった。皆さんに心配してもらって申し訳ないやらありがたいやら。街をきれいにする気持ちがあるのは素晴らしいことだ」

と感慨深げに作業を眺めていた。同協議会は十八日、岩手公園周辺の落書きや張り紙を一掃する第一弾の活動を行った。事務局の寺井良夫さんは「これまで中津川流域を観光客に歩いてほしいと思う一方、落書きがあるので恥ずかしい気持ちがあった。今後は自信を持って案内できる」と笑顔を見せた。